



平成22年度春季講座「歴史遺産と生きる」第4回講演要旨

鶴岡八幡宮の歴史・伝統と生きる

講師：國生護衛さん（鶴岡八幡宮 禰宜）

とき：平成22年6月19日（土） ところ：鶴岡八幡宮直会殿

講義が始まる前、塾生一同で本宮に参拝し、鶴岡八幡宮についてお話を伺いました。大石段を降りた所で、強風に倒れた大イチョウに関して、その後の経過と「生命あるもの」の継承の大事さについて説明を受けました。

直会殿に戻り、講師の國生禰宜から37年間の奉仕で得た八幡宮の歴史・祭祀等についての識見を伺いました。以下がその要旨です。

鶴岡八幡宮は西暦でいうと1063年に創始、1191年に現在のような上下両宮の形で鎮座、ということで神社としては比較的新しい。820年ほど経ったが、大体お宮は出来てからの年数が知れないぐらいの方が多し。お社を守り、佇まい正しく残して来たのが神社の特徴で、それを支えてきたバネが祭である。

◎八幡宮について

八幡宮は全国で3万5千社ほどあり、祭神として応神天皇・神功皇后・比売神を祀る。全国の神社は神社本庁に掌握されたものが約8万社、登録されないものを含めると10万社以上ある。神社の祭神で一番多いのはお稲荷さん、その他に神明さま、天神さまなどがある。お稲荷さんが多いのは、食べ物や生命を守る神様だから。

八幡宮は、九州宇佐の地に元となるお宮がある。九州地方の古い信仰の上に、仏教伝来と共に大陸からさまざまな文化が入ってきた中で、大分の宇佐神宮に八幡さまが鎮座した。今年（2010年）4月応神天皇1700年祭があった。天皇在位は西暦の270年から310年といわれ、宇佐に祀られたのは7～8世紀であった。八幡様として祀られた際、新しいスタイルをとり「吾は神であり、仏である」と名乗り出られたとされる。「護国靈驗威力神通大自在王菩薩」と自称して出てきた力のある神であった。大陸の技術と力を備えて、奈良の大仏建立にも力を貸して、九州から都に進出した。さらに、平安京の鎮めの神として、京都男山に鎮座されて石清水八幡宮が出来た。

◎源氏と鶴岡八幡宮

1063年、前九年の役に際して、源頼義が石清水八幡宮で破魔矢と弓をいただき出征し、奥州平定後にお礼の心から由比ガ浜に宮を設け、源氏の氏神であった八幡宮を祀った。

源頼朝は1180年に旗上げしてから、八幡神を戴いて政事を進めた。中心になったのがこの小林郷で、鎌倉に入っすぐここにお宮を遷した。1182年には若宮大路を建設し、境内を整え東西の池を造った。

1185年に壇ノ浦の戦いに勝って天下が治まり、1186年にはここで静御前の舞があり、翌年には例大祭を始めた。宮寺であったので放生会を催し、あわせて武家にふさわしい祭りと流鏝馬を行った。

1191年の大火後には直ちに復興、上の段に本宮が作られた。下の宮が若宮で、上下両宮という形に整えられ、改めて石清水八幡宮から神様を遷された。この年に初めて鶴岡八幡宮という名称となった。

◎神社の佇まいと信仰

1192年に頼朝は征夷大將軍となり、夏には実朝が誕生。頼朝公は命を懸けた証に先祖が祀った八幡宮を整備し、宮への参道を町の中心とし皆に示した。段葛は一段高い参道で、世界でも他に無い信仰の道である。今は二の鳥居の所がお旅所で、神に近付いて行く入口。段があることに意味がある。神社境内は鳥居が結界、参道も段葛も結界、手水で清めを受け中に入り、神に近づいていく。

今の本殿は徳川11代將軍家齊公、若宮は2代秀忠公の建立である。共に国の重要文化財で、2003年から2006年に修理されて今日に至る。

森に囲まれた佇まい全体が神社境内、神聖な場、その中で祭が行われてきた。静の舞もその一つで、八幡大菩薩に奉納した。鼓を工藤祐経、銅拍子を畠山重忠が受け持った。1187年の流鏝馬では5騎が3つの的を全部射抜いた。放生会も含めこうして例年のお祭りをする事で、文化をきっちり守り継承してきた。

大イチョウが2010年3月10日に倒れたが、ひこばえが成長している。幹の方は根が出るのに3年かかる。

お宮のシンボルとして守っていききたい。

めざせ世界遺産登録

あなたも参加団体で活動しませんか？

中世の文化財の保存をめざす

鎌倉中世博物館を支援する会

1999年10月に、鎌倉風致保存会の歴史グループに属したメンバーが中心になって、『鎌倉中世博物館建設の夢を語る会』を発足。「鎌倉に国立の中世博物館を誘致するなどして、わが国の中世研究に欠かせない貴重な文化財の保存と活用を中心施設としたい」と様々な検討と活動を重ねてきました。

2002年に作成した、約2メートル四方の『13世紀鎌倉の地形模型』は関係者の間で好評を博し、翌年には市役所入口ロビーに約1カ月展示されたのをはじめ、



13世紀鎌倉の地形模型
(御成小学校多目的教室での展示)

市内すべての生涯学習センターと市内8つの中学校を回って展示され、世界遺産登録をめざす市民の鎌倉中世史への関心をかきたてました。

その後、鎌倉博物館(仮称)を野村総合研究所跡地へ設置することになり、2009年5月には市民グループとして側面的な協力体制を作ろうと、現在の名称に改めました。代表世話人の中島章夫さんは「昨年9月には御成小学校講堂を展示に活用するための陳情を行うなど活発に活動が続けています。入会希望の方はまず電話0467-47-0511を」と話していました。

フラワーセンターに《金槐和歌苑》を

鎌倉三日会

鎌倉三日会では創立60周年記念企画として、三代將軍源実朝の歌集にちなむ「金槐和歌集散策路」を県立フラワーセンター大船植物園に作って、「武家の古都」の精神文化を支える主軸にしていこうという努力が根気よく続けられています。



大船フラワーセンターの「金槐和歌苑」は、(エンジミ)の木。『金槐和歌集』の槐は「槐門(かいもん)にちなんだん名所。大臣の唐名」にちなみ

その一環として園内の植物と実朝の和歌33首を記した「金槐和歌集散策マップ」を作り、訪問客への便宜を図っています。例えば「コウヤマキ、まき、真木、榎」と呼称が記された植物名のところには、「五月雨の梅雨もまだひぬ奥山の真木の葉がくれ鳴くほととぎす」と実朝の和歌が記されています。

鎌倉三日会理事の中村公司さんは「今後はセンターや他の団体と協力して、和歌と植物名を記載した表示板を立て、武家文化に浸りながら楽しく散策できるようにするとともに、素晴らしい槐の木がある和風庭園を金槐和歌苑として整備し、世界遺産をめざす文化の香り高い『武家の古都・鎌倉』のシンボリック存在の一つとして、国内や世界に誇れるようにすることを県に提案していきたいと考えています」と話していました。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第18回 仏法寺跡は、どんな遺跡？

稲村ヶ崎近くの「霊山」と呼ばれる丘陵の中腹に、幅80m、奥行40mほどの平場があります。平成十二年(十四年)に、海岸一帯を足下に見下ろすこの平場で発掘調査が実施され、建物や池の跡が発見されました。また、池の跡からは、薄く削った木片に墨で経文を書いた「柿経」が多量に出土しました。

極楽寺の縁起には、霊山に「仏法寺」という支院があったことが記されています。近世の境内絵図には、丘の中腹に「仏法寺」「請雨池」が描かれており、調査で発見された遺構が仏法寺の跡であることが明らかになりました。

中世の軍記物語である「梅松論」には、元弘三年(一一三三)の新田義貞による鎌倉攻めの際に、新田軍が霊山に陣を置いたことが記されています。また、これを迎え撃つ北条軍が、仏法寺と考えられる寺(霊山寺)の門に立て籠ったという文書も残されており、霊山の周辺で大規模な戦闘が行われたと考えられます。

このように、仏法寺は、極楽寺の支院として鎌倉の西の交通の要所にあった寺院であり、中世以来の遺構を今も良好に残す遺跡であることから、平成十八年に国史跡に指定されています。